

第 25 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会 (ホール審査) 総評 ソロアーティスト部門

●審査員 A

全国大会から選ばれた 8 人の演奏を聴きました。今回は今迄以上にレベルが高く、難曲に挑戦された方が見事に弾きこなされており感心しました。良い音色できちんと演奏されている方が多く、僅差で賞が決まりました。次回も頑張ってください。

●審査員 B

この部門では、どのピアニストも高いレベルのピアノ技術を発揮し、非常に難しく内容の濃いプログラムに挑んでいました。演奏のレベルはさまざまだったように思います。

他の部門の参加者へのコメントとも共通するのですが、ショパンの音楽における顕著な特徴は、①美しい音を心がけること、②美しく且つレガートな旋律で弾くこと、③和声の構造をはっきりさせること、の 3 つです。右手と左手のバランスの良さはもちろん、ペダルは適切且つ控えめに使いましょう。

これらの明白なコツとは別に、もうひとつ根本的なことがあります。ソロアーティストという部門名はあなたにとってどのような意味を持ちますか？中学生部門、高校生部門、大学生部門とソロアーティスト部門との違いは何でしょうか？何か違いはありますか？

ショパンの教え子はレッスンの際に彼からこんな言葉を聞いたそうです。「あなたは間違いなく私の最高の生徒の一人で、どんな曲も実に良く弾きます。でもそれだけでは物足りないのです。他の 15 人のピアニストと同じように弾いているのでは駄目なのです。アーティストであるということは、(例え優秀でも) 生徒であるということとは異なります。独自の道を進まなければなりません。専門的な文献を学び、(ピアニストに限らず) できるだけ多くの優れた演奏を聴いてインスピレーションを受け、自分だけの個性を見つけてください。」

●審査員 C

素晴らしい演奏をありがとうございました！

トスカニーニとの会話の中で、G.マーラーは彼に「楽譜の中にはエッセンシャルなもの以外はすべて書かれている」と言いました。この「エッセンシャル」を探すことは、非常に複雑且つ興味深い作業です。

もし何かアドバイスできるとすれば、普段の練習（音色、ペダリング、フレージング、音楽構成など）と並行して、更に内容について考えてみてください。

●審査員 D

本コンクールにおけるソロ部門の最上位に位置づけられる部門だけあって大変聴きごたえがありました。参加者の年齢は審査員には分かりませんが、演奏しているお姿を見て、年

齡が反映された演奏だったように感じました。皆さまが今後どのように成長されていくのかとても楽しみであります。

●審査員 E

以前のこの部門はアマチュアのような方もよく出場しており、参加者のバラつきが非常に大きかった記憶があります。最近はどんどんレベルがあがっている傾向があり、特に今回は粒ぞろいの参加者で次元の高い大会だったと感じます。とても手ごたえのある内容であり、この部門を今回ほど興味深く聴くことができた体験は少なくとも私は初めてです。

●審査員 F

「ソロアーティスト」という部門名なだけあって、各々ご自分の個性を大切にされた選曲・演奏が多かったです。これからもご自分のよい部分を伸ばしていただきたいと思います。